

伯耆町地域農業再生協議会（鳥取県伯耆町）

組織の概要

- 伯耆町、JA、農業委員会などが連携し、H23年8月に設立
- 構成農家 1,125戸
- 土地利用型作物のほか、高収益性作物（白菜、白ねぎ、ブロッコリー、キャベツ等）の生産拡大の推進、肉用牛を中心とした畜産振興及び耕畜連携取組の推進など、経営の発展を図っている



生産概要

- 【作付面積】水稲：652ha、小麦：4.2ha、大豆：11.12ha（R6年）
- 1年1作の輪作（稲→大豆）、ブロックローテーション実施
- 大豆については、サチユタカを中心に作付けが行われている。今後はより収量が見込める星のめぐみの作付けを推進し、国産大豆の生産拡大を進める。



伯耆町内の大豆圃場

取組のポイント

<生産性向上に向けた集落での話し合いを実践>

- 生産性を向上させるため、大豆、水稲を交互に作付けするブロックローテーションの体制を、地域再生協のほか、農業者・普及所などを交えて検討した



検討会の様子

<省力化及び生産性向上に向けた排水対策の実践>

- ブロックローテーションの体制検討の結果、排水の悪い大豆作付予定の圃場において、弾丸暗渠を施工し、排水管理に係る労力を省力化した

<栽培管理の効率化に向けたドローンの活用>

- ドローンを活用して上空から作物の生育状況の確認や病害虫を早期に発見し、効率的な施肥及び農薬散布を行った
- その際、普及員も立ち会い、防除判断や施肥のタイミング等についてアドバイスをいただき、産地でのドローン活用技術の向上に努めた



弾丸暗渠施工の様子



圃場センシングの様子

取組成果

<作付面積の拡大>

- 排水対策技術の導入やドローンによる栽培管理の省力化により作付面積が
6.5ha（R5）→**11.12ha**（R6）に増加

<その他>

- 額縁明渠を掘り、排水対策していたが、ほ場の場所によっては排水効果が薄かったところ。弾丸暗渠に切り替えることで、このような状況が解消され、効果的な排水管理が可能となった。
- 上記の取組を実施した大豆農家の平均収量が
185.6kg/10a（R5）→**192.9kg/10a**（R6）に増加

